

令和 7 年 8 月 4 日(月)付

タイ訪れ異文化探求へ

きょうから 島根県立大生32人

島根県立大松江キャンパス(松江市浜乃木7丁目)

の1〜3年生32人が、4日からタイを訪れ教育機関で研修に参加する。単位取得にはつながらない課外活動だが、普段は教員や保育士などを目指して勉強する学生が、タイの孤児院に届ける支援物資を集めるなど準備を進める。

12日までの間、協定を結ぶ国立シーナカリンウィロート大教育学部で学ぶ学生とのディスカッションや、

現地教員との意見交換、同大付属の小学校で運動や

日本語教育、図工などの授業を担当する。異国の文化に触れ、これからの教育の在り方を考える契機になればと県立大が初めて企画した。

タイの孤児院では子どもたちとの交流も予定。引率の中谷昌弘准教授(54)が、個人的にタイの孤児院に支援物資を送る活動をしていることから、学生も「支援物資を募りたい」と提案。

学内メールや大学主催のイベントで呼びかけ、300着の衣類などを集めた。手分けして現地へ運び寄付する。

学生たちは、日本文化を伝えるパワーポイントを作り、英語で発表する準備を進める。人間文化学部保育教育学科3年の吉岡未萌さん(21)は「孤児院の子どもたちと、言語の壁を越えたコミュニケーションを楽しみたい」と意気込む。中谷准教授は「将来、教育に携わる学生にとって視野を広げる良い機会になる」と期待する。

(増田枝里子)



集まった支援物資を前に感謝の気持ちを示す学生＝松江市浜乃木7丁目、島根県立大松江キャンパス